

〔様式 1〕

事務事業評価表

1～11までは、担当課による評価

記入年月日				
平成15年度	事業コード	36110	電話	042-769-8200
担当部課名	企画部	広聴広報	課	広報 班
事務事業名	ラジオ広報			

1 総合計画における位置づけ

政策名	第6章	高度情報化への対応を図ります	事業開始年度
基本施策名	第1節	豊かな市民生活を実現する情報化の推進	年度
施策名	第1施策	情報通信メディアを活用した行政サービスの推進	

2 実施根拠及び関連法令等

--	--	--	--	--

3 事務の区分

自治事務

4 経費の区分

その他の経費

5 事務事業の分類

市単独事業

6 受益者負担

なし

7 事業概要

(1)事業の目的...何をどのように(どのような状態に)したいのか		(2)対象(誰、何)	
県内および隣接都県を可聴範囲とするFMヨコハマ及び市内および隣接市を可聴範囲とするFMさがみを活用し、市の取り組みやイベントなどを市内外へ紹介することで、相模原市をPRするため。		市民、県民など	
		対象数	1700万人
(3)平成14年度事業の内容...市が実際に行った事業の内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・FMさがみ...相模原インフォメーション [放送時間]...月～金曜日午前7時54分と午後5時54分から、土・日曜日午前8時54分と11時54分からのそれぞれ5分間の放送 [放送内容]...市内で行われる催しや市政案内など毎日内容を変えて放送 ・FMヨコハマ...エリアナビ 放送時間...毎週水曜日午前9時45分～48分の3分間の放送 放送内容...市内で行われる催しや施設の情報、市政案内などを放送 			
(4)個別計画の概要		概要	
計画名			
計画年次	年度～	年度	

8 評価指標...事業の目的達成度を計るための指標

15,16年度は目標値

成果指標	指標名	指標式	指標設定の意図	指標の推移(年度)				
				12	13	14	15	16
活動指標	聴取率 % ・FMさがみ ・FMヨコハマ		聴取者を計る	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
				2.8	4.8	4.8	4.8	4.8

9 事業費等の年度別状況

〔金額単位：千円〕

事業費		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
		決算	決算	決算	予算	予算(見込み)
	決算(予算)額	5,544	5,544	7,056	7,056	7,056
	人員・時間数	3人・312H	3人・312H	2人・378H	2人・378H	2人・378H
	人件費	1,297	1,297	1,572	1,572	1,572
	その他経費					
	合計	6,841	6,841	8,628	8,628	8,628
	特定財源	0	0	0	0	0
	対象数	15,300,000	16,400,000	17,000,000	17,500,000	18,000,000
	対象の単位あたり経費	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

10 個別評価

(1)達成度 評価 B ▼	A：達成している	チェック項目	・成果指標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	B：一部達成していない		・活動指標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	C：達成していない		・事業目標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
		説明	聴取率の低さから、全市民に情報が行き届いているかを考えると疑問が残るが、貴重な情報源として存在しており、ある程度は達成されていると思われる。
(2)必要性 評価 A ▼	A：適応している	チェック項目	<input type="checkbox"/> ・市民や社会のニーズにかなっていない
	B：一部適応していない		<input type="checkbox"/> ・状況の変化(対象や内容)に対応している
	C：適応していない		<input type="checkbox"/> ・当初設定した事業目的が達成されていない
		説明	<input checked="" type="checkbox"/> ・国、県、民間、市民との役割分担から見て、市が事業を行う必要がある 情報を提供するにはさまざまな媒体を用いることが不可欠である。その中でラジオの役割はとても重要である。
(3)有効性 評価 B ▼	A：有効である	チェック項目	<input type="checkbox"/> ・上位の施策、計画目的達成のために有効である
	B：一部有効でない		<input type="checkbox"/> ・期待された成果が得られている
	C：有効ではない		
		説明	ラジオでしか聞けない耳寄りな情報を提供することにより、有効な手段といえる。
(4)効率性 評価 B ▼	A：優れている	チェック項目	<input type="checkbox"/> ・予算や人員に見合った効果が得られている
	B：一部改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他市と比べてコストや効率性が優れている
	C：改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他の類似事例と比べてコストや効率性が優れている
		説明	<input checked="" type="checkbox"/> ・同一対象者に対して同種のサービスが重複していない 聴取率がやや低い感もあり、放送時間や放送曜日、放送内容など市民のニーズを把握し、より優れた情報を提供する必要がある。
(5)公平性 評価 A ▼	A：公平である	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・対象者と非対象者との不公平・不均衡は、妥当な範囲である
	B：一部公平でない		<input type="checkbox"/> ・受益者の費用負担は適正である
	C：公平でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・対象者の設定は適切である(年齢や所得等を考慮している)
		説明	FMヨコハマ、FMさがみとも全市的に聴取可能であり公平といえる。
成果向上の余地		事業費削減のために取り得る手段と削減額	
<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	説明： 平成11年度までは関東エリア対象のラジオ日本・ニッポン放送等でラジオスポットを放送していたが、身近に存在するFMのみで放送することにより、効果をあげてきた。今後も生活に密着した話題を提供していく必要がある。	手段	FMヨコハマでは、一方的なお知らせではなく、レポート形式による現場中継をするなどして、聴取者の興味を引くような放送内容にするなど検討をする必要がある。
		削減額	0 千円

11 総合評価

評価	B ▼	他自治体の類似事業との比較 FMヨコハマは、横須賀市や小田原市の情報を放送している。FMさがみ同様の地元コミュニティ局は、大和市などにもあり、市政に関する情報を放送している。
今後の進め方		
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	総合評価に関する説明
<input type="checkbox"/>	見直し	FMさがみは、地元密着した唯一のコミュニティ局として存在しており、情報提供するには欠かせない存在となっている。またFMヨコハマは、現在放送している「ザ・ブリーズ」は人気のコーナーでもあり、県民等に情報を提供するのにも有効な手段といえる。
<input type="checkbox"/>	廃止	
<input type="checkbox"/>	完了・廃止済	

12 二次評価コメント

--